

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2016 年 1 月～12 月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

＜編集・発行＞ 富山市立図書館 富山市西町 5 番 1 号
電話 076-461-3200

平成 29 年 4 月 23 日発行（年 1 回発行）



ミスターオレンジ

トゥールース・マティ／作 野坂悦子／訳 平澤朋子／絵 朔北社



やおや
八百屋の配達を手伝うライナスは、毎週月曜日を楽しみにしています。木箱いっぱいのオレンジを注文する画家「ミスターオレンジ」のアトリエに行けるからです。

赤・青・黄の四角形だけを組み合わせ、見たこともない絵を描くミスターオレンジ。せまりくる戦争のかけ
か
の中、ライナスは初めて知る芸術（げいじゅつ）の世界に夢中（むちゅう）になります。

ぼくらのウソテレビ

ねじめ正一／作 武田美穂／画 くもん出版



お金持ちの家にしかテレビがなかったころ、ぼくのクラスに、おぼっちゃんのかまた鎌田が転校してきました。ぼくはテレビをほしがる鎌田を見て、思わず家にあるとウソをついてしまいます。みんなからテレビを見せてと言われたぼくは、物置にある古い茶ダンスで、にせものの「ウソテレビ」をつくることを思いつきます。



のんびり村は大さわぎ!

アンナレーナ・ヘードマン／作 菱木晃子／訳 杉原知子／絵 徳間書店

アッベは、ママと2人で暮らす女の子。夏休みになるとママの田舎の「のんびり村」ですごします。

村でのくらしに飽きてきたアッベは、友だちと「ギネス世界記録」をこうしん更新することを思いつきます。はじめは失敗ばかりでしたが、まき薪を使ったいいアイデアを思いつきます。村のみんなをまきこんで挑戦した世界記録とは…?



チキン!

いとうみく／作 こがしわかおり／絵 文研出版



めんどうなことやもめごとをさけて学校生活を送っていた拓の毎日は、真中凜という転校生によって一変します。凜はまちがったことがきらいで何でもはっきり言うため、クラスのみんなとトラブルばかり起こすのです。

凜の転校とまっすぐな言動には、弟へのいじめと、死んだお母さんとの約束が関係していました。

ケンガイにっ!

高森美由紀／作 加藤休ミ／絵 フレーベル館



毎日夜中までスマホゲームばかりの俊^{しゅん}でしたが、電波も届かない田舎^{いなか}の家で夏休みを過ごすことになります。

田舎のばあちゃんは、死^{ぎわ}に際に食べる最後の料理を作る「お食いじめや」でした。そんなばあちゃんの料理は心がこもっていておいしく、今までゲームしか頭になかった俊は、食事の時間を楽しみにするようになります。



青い目の人形物語 1・2

シャーリー・パレント／作 河野万里子／訳 岩崎書店

約 90 年前、アメリカと日本の子どもたちの間で、友情^{ゆうじょう}の証^{あかし}として人形^{こうかん}を交換する行事がありました。

アメリカ人のレキシは、人形のエミリーの気持ちになり、友情^{はいく}の気持ちを俳句にこめて手紙を書きました。俳句は海をわたり、日本のある少女のもと^{とど}に届きます。

1 はアメリカ編^{へん}、2 は日本編です。



きかせたがりやの魔女^{まじょ}

岡田淳／作 はたこうしろう／絵 偕成社



教室へいそいでいたぼくは、階段^{かいだん}の踊り場^{おど}で魔女に出会い、話を聞いてほしいとたのまれます。語られたのは、ある小学校に住み、階段を通ったみんなが踊りだす魔法を使った「踊り場の魔女」のお話でした。魔女は何度もぼくの前にあらわれ、「ひげの魔女」や「しおりの魔法使い」など、全部で 6 つのふしぎな物語を語ってくれます。

テオの「ありがとう」ノート

クロディーヌ・ル・グイック＝プリエト／著 坂田雪子／訳 PHP 研究所



テオは、生まれつき体が不自由で、車いすで生活をしています。だれかに何かを頼むたび、^{たの}「ありがとう」を言うようにしていましたが、ある日とつぜん、それがいやになりました。テオは礼儀正しくするのをやめることにしたのです。しかし、テオが^{れいぎ}「ありがとう」を言わなくなると、^{たいど}みんなの態度が変わり始めました。



青空のかげら

S. E. デュラント／作 杉田七重／訳 鈴木出版

^{じどうようごしせつ}児童養護施設にいるミラとザックの姉弟には、なかなか新しい里親が見つかりません。

施設に来て2度目の夏、マーサという女性^{じよせい}が2人^{じたく}を自宅に^{まね}招いてくれます。ミラはマーサに気に入られたいと思いますが、ザックは家に着いたとたんに^{どろ}泥まみれになったり、家の物をこわしたりと、いくつも問題を起こします。



世界一のランナー

エリザベス・レアード／作 石谷尚子／訳 評論社



ランナーになりたいという夢^{ゆめ}をひそかに持っているソロモン。ある日、じいちゃんの付きそいで街へ出かけます。ところが、急にじいちゃんが^{たお}倒れてしまい、家に知らせなければならなくなりました。家には電話がありません。ソロモンは、はるか30キロの道のりを走って帰る決意をし、足を^ふ踏み出しました。